

令和 4 年 度

八代市議会経済企業委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 12月定例会付託案件 1

令和 4 年 1 1 月 2 8 日（月曜日）

経済企業委員会会議録

令和4年11月28日 月曜日

午前10時54分開議

午前11時21分閉議（実時間27分）

○本日の会議に付した案件

1. 議案第89号・令和4年度八代市一般会計補正予算・第9号（関係分）

○本日の会議に出席した者

委員長	増田一喜君
副委員長	北園武広君
委員	成松由紀夫君
委員	野崎伸也君
委員	橋本隆一君
委員	堀口晃君

※欠席委員 百田隆君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

経済文化交流部長	岩崎和也君
経済文化交流部次長	野口博之君
商工・港湾振興課長	松永貴志君
商工・港湾振興課長補佐	高田剛志君

○記録担当書記

村上政資君

（午前10時54分 開会）

○委員長（増田一喜君） それでは、定足数に達しましたので、ただいまから経済企業委員会を開会いたします。

本日の委員会に付します案件は、さきに配付してあります付託表のとおりであります。

それでは、予算議案の審査に入ります。

◎議案第89号・令和4年度八代市一般会計補正予算・第9号（関係分）

○委員長（増田一喜君） 議案第89号・令和4年度八代市一般会計補正予算・第9号中、当委員会関係分を議題とし、説明を求めます。

それでは、第6款・商工費について、経済文化交流部から説明願います。

○経済文化交流部長（岩崎和也君） 皆様、おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）経済文化交流部、岩崎でございます。

それでは、議案第89号・令和4年度八代市一般会計補正予算・第9号の経済文化交流部所管分につきまして、野口経済文化交流部次長が説明いたしますので、御審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○経済文化交流部次長（野口博之君） おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）経済文化交流部の野口です。恐縮ですが、着座にて御説明をさせていただきます。

それでは、議案第89号・令和4年度八代市一般会計補正予算書・第9号を御覧願います。

経済企業委員会付託分のうち、経済文化交流部関係を御説明いたします。

2ページをお願いいたします。

歳出の款6・商工費、項1・商工費で、補正額9678万円を増額し、補正後の額を30億7815万2000円としております。

次に、7ページを御覧願います。

款6・商工費、項1・商工費、目2・商工振興費で、補正額9678万円を増額し、補正後の額を22億9781万3000円としております。

右側の説明欄の新型コロナウイルス感染症対策事業（商店街活性化）2678万円は、エネルギー、食料品価格等の物価高騰の影響により低迷している個人消費の喚起と地域経済の早期

回復を目的に、八代社交飲食業組合が実施する、はしご酒事業や飲食店等の活性化を支援するものでございます。

事業内容としましては、1枚1000円の6枚つづりとなっております6000円分の商品券を半額の3000円で販売するものであり、八代社交飲食業組合の加盟店かつ安心なまちやつしろプロジェクト加入店舗におきまして、1000円分のチケット1枚で1500円以上の特別メニュー等が提供されるものでございます。

販売期間は、令和4年12月15日から発行予定数4000冊に到達するまでとし、使用期間は令和5年1月18日から令和5年2月12日までの26日間を予定しています。

市からの補助金2678万円の内訳としまして、1冊当たり3000円のプレミアム経費として1200万円、来店者がチケット以上のサービスを楽しめるよう、各店舗が独自に企画する集客企画料として1200万円、その他広報宣伝経費等で278万円を計上しております。

なお、特定財源としまして全額、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を予定しております。

その下の原油高騰対策運送事業者等緊急支援事業（重点交付金）7000万円は、市民生活や産業活動を支える物資の運送等事業者において、原油価格等の高騰に起因する燃料費の負担が甚大となっていることから、燃料高騰分の一部を補助し、事業者の負担軽減を図るものでございます。

事業内容としましては、対象事業所は市内に事業所等を置く中小企業または個人事業者で、資本金3億円以下または常時使用する従業員が300人以下のいずれかを満たす会社・個人としています。

また、対象事業者は貨物自動車運送業及び自動車運行代行業で、対象車両は普通貨物自動

車、小型貨物自動車、随伴用登録車両としております。

内訳としまして、普通貨物分は1台4万円の1200台として4800万円、軽以外の小型貨物分は1台3万円の600台として1800万円、軽の小型貨物と運行代行の随伴用登録車両分は1台2万円の200台として400万円を計上しています。

なお、特定財源は全額、国の電気・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金を予定しております。

説明については、以上でございます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○委員長（増田一喜君） それでは、以上の部分について質疑を行います。質疑ありませんか。

○委員（野崎伸也君） すいません、はしご酒事業の関係なんですけれども、今回、広報宣伝経費って結構お金かけてやられるみたいなんですけど、これはいつもとちょっと違うなというふうに思うんですけど、これは何でなんですかね。何か意図があってからですかね。

また、内容的なところ、どういうことをやられるか、ちょっとお聞かせください。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） 商工港湾振興課、松永です。よろしくお願いいたします。

広報宣伝経費の内訳といたしまして、パンフレット、ポスター、チケット印刷代といたしまして60万円、広告掲載費——フリーペーパー等ですね、各3社に50万円、ウェブサイトでの広告制作等も含めまして45万円、チラシ折り込み費用を25万円を見ております。

以上でございます。

○委員（野崎伸也君） すいません、分かりました、内訳は分かりました。

これは八代市のほうが企画して、こういうことを宣伝したいなというふうなことで企画されたんですかね。それとも事業者のほうから提案

があったということですか。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） この事業は、社交飲食業組合さんの主体事業といたしまして、八代市が補助事業として行うものでございます。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（野崎伸也君） 今で言えば、社交飲食業組合の方々がそういうことやりたいんだということで予算化したということで、理解でよろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）

もう一点、よかですかね。

○委員長（増田一喜君） はい。

○委員（野崎伸也君） 内容はプレミアム経費のほうなんですけれども、3000円のやつで4000冊というようなことであるんですけど、これは1人当たり何冊まで購入できるのかというのは、何か制限とかあるんですか。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） 特にはですね、制限等は設けてございませんけども、仮に120店舗加盟店がございましたら、1店舗につき33冊か34冊しか1店舗で売れる冊数がございませんので、そこで売っていただくのはですね、もう任意に売っていただくという形になります。

例えば会社で買われる。会社で買われて、社員さんに配られるとか、そういったことがありますので、そこまでの制限は設けられないということをお聞きしております。

○委員（野崎伸也君） はい、分かりました。ありがとうございました。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（堀口 晃君） こうやった形で今現在、デジタルプレミアム商品券だったりとか、こういうはしご酒だったりとかという部分については、経済を回すという面で非常に効果的なものがあるんだろうと思うんですね。

今回ちょっと、今、はしご酒の事業の部分で

お聞きしたいのが、使用店舗については、社交飲食業組合に加盟していて、なおかつ安心なまちやつしろプロジェクトに加盟している店舗ということでよかったですよね。

これ以外の方々、加盟していらない方々については、何らかのそういう手だてという部分は今考えていらっしゃいますか。それとも、その方々もよかですよというようなことなんですかね。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） ただいまですね、社交飲食業組合さんの組合員さんが約100店舗ぐらいございまして、安心なまちのほうに入っていられるのが約800店舗ぐらいございます。ですので、約700店舗の飲食業さんに加入の御案内を出すという形で、新規組合員さんになっていただくという形でですね、社交飲食業組合さんも組合員を増やしていくという形になれば、この事業に参加していただけるという形になりますので。

その組合に入るハードルをですね、少し下げていただけないかというお願いを今、現状、うちがしているところでございます。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（堀口 晃君） ありがとうございます。税金を使ってやるわけなので、少なくとも幅広くですね、参加できるような店舗をやっぱ増やしていったほうがいいのかなと思いますので、その辺は今後の課題としてお願いしたいと思います。

それとですね、店舗独自の集客企画料1200万円があるんで、今100店舗というふうな部分をおっしゃいましたけども、これについて、例えば10万円なら10万円やるけんが独自の集客の企画をしてくださいということで、市のほうがお金をやって独自で考えていただくという、こういう考えなんですかね。どういうお金なんですかね、これは。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） 400

0冊と言いましたけれども、4000冊の6枚ですので、掛け算しますと2400枚になります。2400枚（「2万4000ね」と呼ぶ者あり）1枚がですね——、ああ、1枚1000円のチケットが2万4000枚になりますので、その1枚1000円につき500円。結果的に1500円になるという形になりますので。

○委員長（増田一喜君） ちょっとそこ。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） 1000円にですね、1000円のチケットにプラス500円上乗せしてサービスをしてくれというお願いをしております。そこについて補助をするという形で考えておるところでございますけれども。（経済文化交流部長岩崎和也君「その500円の内容。例えばほら、集客のための企画ということなので、料理を増やすとか」と呼ぶ）

そうですね、例えば今までチケット1000円で30分お店にいられたのが40分にしますとか、生ビールを1杯だったのを2杯にしますとか、そういったですね、プラスアルファ500円分のサービスを各店舗にさせていただくという企画料がこの1200万円でございます。

○委員（堀口 晃君） 何かちょっとよく分かりにくいんですけども、今の説明では、1000円分の券がありますよ。これが6枚つづりですよ。（「はい」と呼ぶ者あり）の部分があって、6000円になりますと。1000円プラス500円の何か、特別なサービスをしてくださいねというふうなところで、ということとは、3000円分をお店のほうにあげますよという、こんなところでよかったですか。

いや、1000円の分で500円でしょう。6枚あるならば、1人当たり6枚持つとるわけだいが、その1000円に対しての500円の補助をお店にしますよというならば、お店は6枚持つて人が来たならば、もう既に30

00円の分はもらえるという、こんな話なんですかね。

○商工・港湾振興課長補佐（高田剛志君） 商工港湾振興課、高田でございます。

このチケットのプラスアルファの500円分でございますが、先ほど松永課長と重複するところがございますが、まず1000円のチケットを持ってきたら、1500円のサービスを提供できる。

そのサービスの内容が、小鉢1杯だったりだとか、あと、時間を長くするだとか、そういうのは独自の店舗の独自のサービスで提供いただけるという形で、今回、プレミア分の6000円を3000円で買うやつと、各店舗独自で商品を出す分に対しての1枚当たり500円を今回新たにプレミアムとしてつけたところでございます。

以上です。

○委員（堀口 晃君） ですから、今お話しのように、私が買いました、6枚ね。お店に行きました。1000円使います。そしたら、お店の提供は1500円ぐらいの提供があるという、こんな話ですよ。その500円は、市がお店に払いますよという、こんな話なんですよ。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） はい、おっしゃるとおりでございます。それは社交飲食業組合さんを通して、集計をされて、各お店に行くということになります。

○委員（堀口 晃君） ですから、さっき私が言ったように、6枚のチケットを持っとったならば、1店舗で全部使ってしまうというような話ならば、3000円はまたそこにお店に入るという、6000円とは別に入るという話ですよ。何ともおいしいお話じゃありますよね。

自分とこの努力という話ではなく、まあ、それが、500円またもらうという話なんですよ、市からね。

○委員長（増田一喜君） よろしいですか。

○委員（堀口 晃君） はい——。何か、それでよかつかなと思って。

○委員（成松由紀夫君） これ、期間が1月18日から2月の12日、比較的ちょっと短いかなというのと、あと、デジタルプレミアム商品券のときも、なかなか、タブレット・スマホを使つての操作ができる人はいいけども、できない人とか、高齢者も含めてですけどね。ちょっとつい先日、公平性に欠くじゃないんだけど、もう分からんもんが、もういっちゃんあの手のやつは分からんって。前回の件も含めてなんだろうけど、やっぱどうしても高齢者の人たちは、もう手続がややこしかったり、タブレットを使つての操作、スマホとかという部分というのがやっぱり非常に今後課題になってくるかなというのも考えるのと、それと、期間の設定。執行部は一生懸命考へてのことだから、それに対してどうこうはないんだけど、例えば、ちょっと危機管理的に、たればの話しちゃまずいんだけど、第8波的なことで、東京でも、ちょっと県外見ると、もうかなり行動制限であつたり、なかなか難しい状況になっているのかなとは思ふものの、仮に第8波というか、そういったことがあつた場合にですよ、あつた場合に、この事業がどういうふうに、危機管理として想定されてるのかをちょっと聞かせてもらえれば。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） 現在です、ね、行動制限がないというところでこの事業を行う予定でございますけども、行動制限がございましたら、そこはですね（委員成松由紀夫君「緊急事態宣言ね」と呼ぶ）そうですね、そういったところを十分検討するということですね、今、社交飲食業組合さんと話し合つております。

そうした場合はですね、ちょっと期間をずらすですとか、そういったところは柔軟に考へて

いきたいと思つております。

それと、この期間の問題ですけども、通常、はしご酒をされる場合は、1週間ですとか2週間ですとかのもっと短い期間で行われてるんですけど、今回、うちからお願いいたしまして26日間と。約1か月間。年始過ぎまして、閑散期の時期を26日間と充てたところでございます。

○委員（成松由紀夫君） 今、その見込みとしては、もう完売する予定ですか。社交飲食業組合さんの手ごたえも含めて、まだ今からなんだろうけど、どんな感じなんだろう。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） 通常、飲食業組合さん独自でされてる場合ですと、3000冊を売つてるところでございますけども、今回、プレミアがいろいろついてますので、4000冊というところで、これはもうすぐ売り切れてしまうだろうというふうに踏んでいらっしゃいます。

○委員（成松由紀夫君） 担当課がまた一生懸命ですね、考へながらやっているものの、コロナ禍ということで、イレギュラーなことであつたりとか、結果論でまたいろいろ言われるところもあるんで、執行部も大変なところがあるかと思いますが、危機管理的なことと、あと、課題になる取扱いのやり方ですね、私が最初に冒頭に言った、アナログも併用しながら。デジタルは積極的に推進していくのはいいんだけど、やっぱりそういった高齢者の方を意識したり、誰も取り残さないというようなのが本当は実は一番難しいところなんだけど、そこは含めて考へていただければと。

最後は要望です。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） すいません、販売方法をちょっと申し上げておりませんでした。

社交飲食業組合さんとですね、いろいろ話す中で、デジタルの話もしましたが、今、委

員おっしゃるとおり、店舗側も使う側も、まだまだそういったところが不慣れな方が多いので、今回は紙ベースで。はしご酒に関しましては紙ベースでいくと。行く行くはですね、デジタルも検討していくというところで今回は進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○委員（成松由紀夫君） どっちでいくとあんまり言わんがええっちゅうか、DXはDXで進めなんけん、併用で、そういう柔軟な考えで今後も進めていってもらえかと思います。

以上です。

○委員長（増田一喜君） 要望ですね。

○委員（成松由紀夫君） はい。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

○委員（野崎伸也君） 原油高騰対策の事業で、貨物のほうですね、これに補助するというようなやつなんですけど、これが対象事業所は資本金3億円以下または常時使用する従業員が300人以下とかっていう決まりがあるみたいなんですけど、これはどういった線引きで決められたんですかね。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） 資本金3億円以下または常時使用する従業員が300人以下というのがですね、中小企業法ですね、法律に基づいての中小企業、個人事業者のことを指しますものですから、そういったところでございます。

○委員（野崎伸也君） 分かりました。

これに合致するようなところで、八代市内で合致するような企業というのをピックアップして、この予算立てされたということでよろしいんですか。

○商工・港湾振興課長（松永貴志君） 貨物自動車等の台数は九州運輸局の市町村別車両統計とか、八代市統計年鑑等ございますので、そこから数字は積算をしております。

以上でございます。（委員野崎伸也君「分かりました。ありがとうございます」と呼ぶ）

○委員長（増田一喜君） ほかに質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） 以上で質疑を終了します。

意見がありましたらお願いいたします。

○委員（野崎伸也君） 先ほどからですね、委員の皆さんからも何回も言われてますけど、八代市デジタルプレミアム商品券ですね、今、第2弾募集とかっていうのやってるのがあって、やっぱり知らない方がたくさんいらっしゃるんですよ、私の周りも。聞いてびっくりするぐらい知らないんですよ。

そのときのですね、予算のやつをちょっと見返してみたら、やっぱり広告宣伝費みたいなやつがですね、全然なかったっですよ。だけん、多分、丸投げして、商工会議所さんをお願いしてっていうところだけで終わっとったと思うんですけど、今回この社交飲食業組合のやつは、広報宣伝費もですね、きちんと取られているというようなことがあって非常に感心しています。

いろんな方々がですね、利用できるようにやっぱり、今回いっぱいされますけれども、八代市としてもですね、頑張っていただきたいというふうに思います。うまく経済回していくように取り組んでいただければというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員（堀口 晃君） 要望なんですけども、こういう今、経済を回すというお話がたくさん出てきて、コロナ禍の中でもう2年、3年も非常に疲弊した状況の中で、飲食業も大変な、ほかの企業も大変だと思うんで、こういったやつをですね、国の補助があるから出せますよということではなくて、やっぱ定期的にですね、年に何回か、3回か4回ぐらい、こういったやつ

を立て続けにやっていく必要があるというふうには私は思ってますので、その辺のところも含めてですね、ぜひ企画のほうをよろしくお願いしたいなと思います。

以上です。

○委員長（増田一喜君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） ないようです。

それでは、これより採決いたします。

議案第89号・令和4年度八代市一般会計補正予算・第9号中、当委員会関係分については、原案のとおり決するに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者 挙手）

○委員長（増田一喜君） 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

執行部は御退室ください。

（執行部 退室）

○委員長（増田一喜君） 以上で付託されました案件の審査は全部終了いたしました。

お諮りいたします。

委員会報告書及び委員長報告の作成については、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（増田一喜君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

以上で本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもって経済企業委員会を散会いたします。

（午前11時21分 閉会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

令和4年11月28日

経済企業委員会